

An aerial photograph of a lush green valley. A river winds through the center, flanked by vibrant green fields and patches of forest. In the background, dark, forested mountains rise under a cloudy sky. The overall scene is a beautiful representation of a rural Japanese landscape.

日本の原風景「文化的景観」

平成19年(2007)

全国文化的景観地区連絡協議会

はじめに

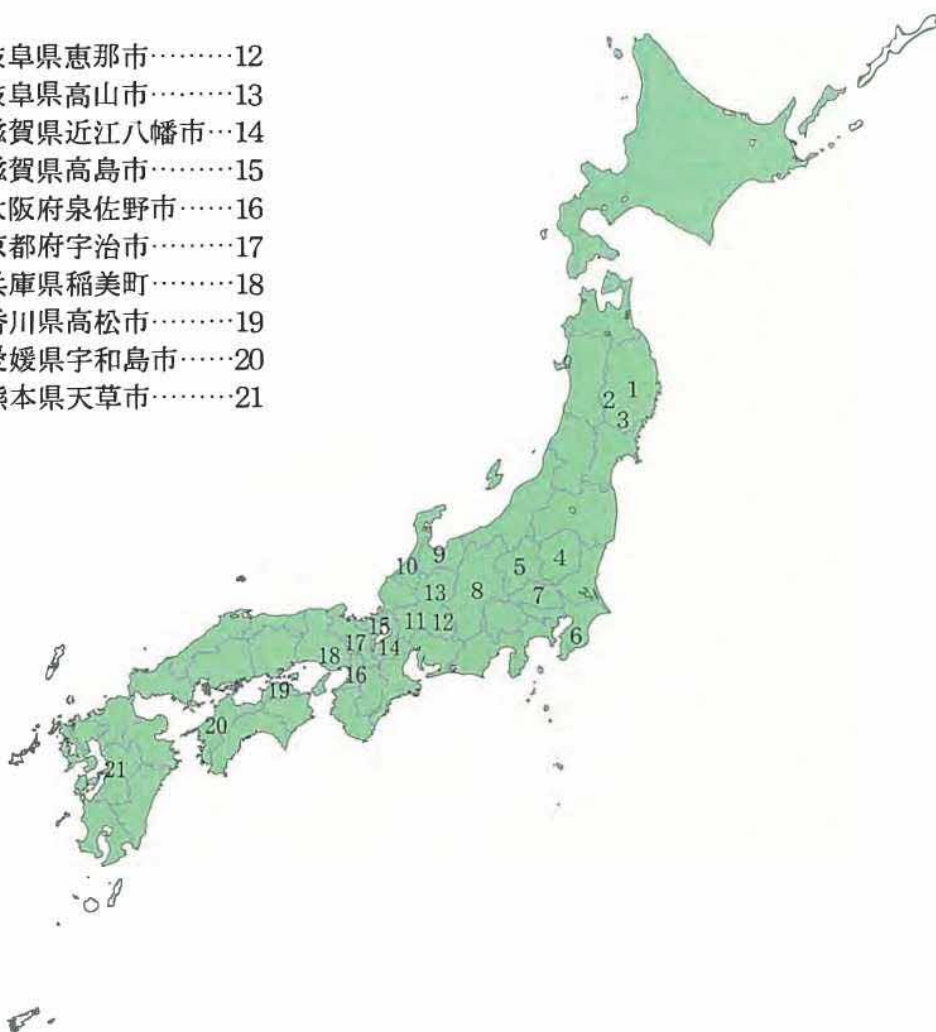
平成17年4月1日に施行された、文化財保護法の一部を改正する法律により、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」（文化財保護法第2条第1項第5号）を「文化的景観」として、新たに文化財の定義に位置付け、そのうち特に重要なものを「重要文化的景観」として選定し、所要の保護措置が講じられることとなりました。

これは、近年の画一的な土地開発や過疎化等の影響により、昔見たふるさとの風景がその姿を失うことに対し、そこで生活する人々をはじめ多くの人々が寂しさを覚えるという心の動きが背景にあると考えます。時代の変化に伴い、人々が物質的な豊かさから心の豊かさを求めるようになってきている証であるとも考えられます。

そこで、この魅力ある日本の原風景を地域で護り、次世代へと受け継ぐため、平成18年7月に全国文化的景観地区連絡協議会が設立されました。

目次

岩手県遠野市……………1	岐阜県恵那市……………12
岩手県奥州市……………2	岐阜県高山市……………13
岩手県一関市……………3	滋賀県近江八幡市…14
栃木県宇都宮市………4	滋賀県高島市……………15
群馬県板倉町……………5	大阪府泉佐野市………16
千葉県鴨川市……………6	京都府宇治市……………17
埼玉県……………7	兵庫県稲美町……………18
長野県千曲市……………8	香川県高松市……………19
富山県南砺市……………9	愛媛県宇和島市………20
福井県福井市……………10	熊本県天草市……………21
岐阜県岐阜市……………11	



■岩手県遠野市 文化的景観「遠野」荒川高原牧場の景観

平成 17 年度～18 年度国庫補助事業として「文化的景観保存調査」を実施した。市内の景観構造を整理→市民アンケート実施→遠野物語の景観的要素分析→候補地の選定→第 1 段候補地詳細調査→調査報告取りまとめ。荒川高原牧場を遠野の文化的景観第 1 段として取り組み、現在保存計画を策定中。7 月末の申出を予定している。

文化的景観 「遠野」荒川高原牧場の景観の概要

北上高地の中央部、早池峰山の南側に広がる標高 800 メートル前後の準平原。古くから放牧が行なわれ遠野の馬産、畜産振興に貢献し、遠野物語を産んだ背景としても重要な役割を持った生物を育成してきた。昭和 30 年代に千刈、荒川、松崎の三つが合併して県内最大級の規模をもった現在の牧場が出現した。最盛期には 1,800 頭の牛馬が放牧されていたが、現在は 700 頭程が放牧されている。早池峰山を望む眺望やシャクナゲ等の希少植物、野生動物と共生した広大な景観は放牧を続けてきた人々の思いが形となった結晶である。



荒川高原牧場の景観



大正 15 年に建立された山神の石碑

■岩手県奥州市（胆沢区） 胆沢扇状地の散居景観と屋敷構え

胆沢扇状地（胆沢平野）は、岩手県南西部の焼石岳（標高1,548m）を水源とする胆沢川が形成した扇状地で、3段から成る洪積台地の低位・中位の河岸段丘面に、約1万haにも及ぶ水田地帯が展開している。水田地帯には屋敷林に囲まれた農家が微高地を選んで点在し、散居景観が形成されている。

この地は『続日本紀』で「水陸万頃」と記され、水に恵まれた豊かな土地柄であったことが窺える。また、江戸時代の『仙台藩寛永検地帳』、『風土記御用書出』等の史料によると、現在見られる散居の形成が江戸時代初期にまで遡ることが確実である。明治時代以後、集居地域が数カ所ほど形成されて現在に至っている。

散居景観を成す屋敷は、「エグネ」と呼ぶ主にスギから成る屋敷林と生垣に囲まれており、母屋、厩、土蔵、長屋門、防風・防雪の効果を兼ねて薪を重ねた「キヅマ」と呼ぶ塀などによって構成されている。

広大な水田地帯に、「エグネ」に囲まれた伝統的な構成と配置を持つ屋敷が散在し、まるで無数の小島が海に浮かんでいるかのような景観を形成している。

小規模ながら住宅団地の造成等により、扇状地には集居地域が増えつつある。また、新築住宅には屋敷林を伴わないものも多く、散居景観の保全が困難となりつつある。

農業経営と連動する土地利用の変化が散居景観に影響を与えることが予測されるが、景観を際立たせている屋敷構えそのもの（屋敷林と生垣等に縁取られた住宅）は維持される見通しが高い。また、静かな動きではあるが、この景観の中でのグリーンツーリズム等への取り組みも進められている。



胆沢扇状地の散居景観—東側から西（奥羽山脈）方向に撮影



水田地帯に点在する屋敷林に囲まれた農家

■岩手県一関市 一関本寺の農村景観

平成18年7月に重要文化的景観に選定されたが、平成18年度は、地域住民と共に各種計画を策定するとともに、地域住民と協働で各種事業を実施した。

計画は、今後の骨寺村荘園遺跡の整備活用策を示した「骨寺村荘園遺跡整備活用基本計画」、景観に配慮した農地整備を進める「景観保全農地整備計画」を策定したほか、景観と調和した農業経営の安定確保を目指した「一関景観農業振興地域整備計画（本寺地区）」の検討を進め、平成19年6月に策定した。

また、「一関市本寺地区景観計画による届出行為に関する条例」を平成18年4月から施行しているが、地域の景観を守り育て次世代に継承することを目的として、平成19年3月に「一関本寺地区景観むらづくり条例」を制定した。

なお、骨寺村荘園遺跡は、平泉の文化遺産の構成要素のひとつとして（名称は、“骨寺村荘園遺跡と農村景観”）、平成20年の世界文化遺産登録を目指しているが、昨年12月に、推薦書がユネスコで受理されたことから、今年の秋に、イコモス（国際記念物会議）の現地調査が予定されている。

課題としては、①史跡及び重要文化的景観としての価値の保存と活用、②水田を基盤とする農村集落の維持可能な地域づくり、③景観に配慮した各種施設の整備、④平泉の文化遺産や周辺地域の景観整備と観光及び活用事業の推進などである。



梅木田遺跡前



一関本寺の農村景観（曲がりくねった畦畔と小区画水田）

■栃木県宇都宮市 大谷の石切り景観

18年度：普及啓発活動（大谷学講座・景観シンポジウム）実施、公図連続図作成

19年度課題： ①区域の特定・地元地権者の同意、②景観計画区域の策定、③行政個別事業の調整
④保存管理計画の策定

課題への対応： ①基礎調査資料を元に所有者を特定、②19年度策定予定、③庁内検討委員会立ち上げ、④保存管理計画策定委員会立ち上げ(年3回)

20年度の選定を目指して18年度から普及啓発活動（大谷学講座）を継続して実施している。18年度は8回開催し、合計636人の参加者があった。19年度も10回の開催を予定しており既に2回実施した。



大谷の石切り採石場の景観①



大谷の石切り採石場の景観②

■群馬県板倉町 水場の文化的景観

群馬県の最東端に位置し、南側を利根川、北側を渡良瀬川に挟まれた低湿地域にあり、古代から水害常襲地帯である。「水害」を「大水」と享受してきた歴史の中にあって、先人の知恵が動態保存されている地域である。

文化的景観の調査域は河川域（谷田川）と自然堤防上に形成された集落である。谷田川域は、堤・堰・用水路等が江戸時代の絵図を彷彿できる状態に残る。河川敷内には、低地の耕作法の一つである掘上げ田（川田）が現在も耕作され、平地林の少ない地域にあって、燃料とするために挿し木したというヤナギが群落（柳山）を呈している。なお柳山の林床には掘上げ田の水路跡も認められ、湿地性の希少植物が群落を成す。7年前に先人の知恵を見直すためにはじめた揚舟（水害時の避難用として、軒先等に揚げてある舟）を活用した「揚舟ツアー」が、現在も好評を博している。もう一つの調査域は、現河道および旧河道において自然堤防が形成され、現在もそれらの上に営まれている集落地部分である。なお自己水防建築「水塚」が、多く残るのも自然堤防上の集落であり、町内に146棟を認める。

平成 17・18 年度に、文化的景観の保存調査を実施し、「水場」という呼称こそ、当地の歴史さらには住民の意識を内包する言葉であるとの結論に至る。「誇れる郷土」「郷土への愛着心」を育む努力をするとともに、住民の意識改革を行っていく中で、景観計画の遅れとの調整をいかに図っていくかが大きな課題であるが、本年度は保存計画策定の予定である。



谷田川と柳山



自然堤防上集落（谷田川左岸）と通り前橋（沈下橋）

■千葉県鴨川市 大山千枚田と周囲の里山

大山千枚田と周囲の里山は、千葉県最高峰の愛宕山（標高408m）の南に位置している。この地域も含め、長狭（ながさ）平野の南側に東西に連なる嶺岡丘陵一帯は全国でも有数の地すべり地帯として知られている。この地域の棚田では、土坡で畦畔が構成され、耕作に必要な水はすべて天水や湧水のみで頼る、極めて原初的な形態が保持されており、そのため、水田内や畔などでは、年間を通して、変化に富んだ貴重な生態系が維持されている。約370枚の棚田が連なる大山千枚田は平成14年3月に千葉県の指定名勝となり、その維持管理を担うNPO法人大山千枚田保存会の地道な取り組みによって、棚田の文化財的な価値も広く認識されるようになった。保存会の会員は現在500名を超え、その7割近くを都市住民が占めており、『全国棚田百選』の中でも最も東京に近い棚田としての地理的特性が十分に活かされている。また、都市と地域の交流も積極的に図られ、地域の活性化におおいに貢献している。



大山千枚田と南に広がる里山の景観（3～4月）



田植えの済んだ千枚田（5～6月）

■埼玉県 野火止用水

江戸時代初期（1655年）、野火止台地の開発に伴い生活用水を確保するため、玉川上水から分水して野火止用水が開削された。この用水沿いには平林寺に代表される歴史資源、雑木林や屋敷林、そして農地があり、独自の景観が形作られている。

新座市では、埼玉県指定史跡である野火止用水とその一連の複合景観について、文化的景観保存計画を策定するための調査を平成17・18年度に国庫補助を得て実施し調査報告書を刊行した。市では引き続き、野火止用水文化的景観保存計画策定委員会を開催し、有識者の指導のもと保存計画策定のための調査、検討を進めている。埼玉県としては、計画策定のための援助を行っている。



平林沿いの野火止用水本流



野火止用水平林寺堀築堤

■長野県千曲市 おぼすて 姨捨棚田

名勝「姨捨（田毎の月、おぼすてたごとのつき）」は、我が国で初めて田んぼが文化財指定を受けた棚田です。名勝指定地 6.7ha を含めた周辺一帯の棚田や集落約 75ha について、重要文化的景観の選定を目指しています。

文化庁の指導・補助を得て、平成 17 年度から 3 か年計画で、文化的景観保存活用計画の策定を行っています。これまでに、棚田耕作者や地域のみなさんの意向調査、土地利用実態の調査、棚田の保全に向けたシンポジウムを信州大学農学部との協力を得て実施してきました。

本年度は自然分野の調査を行い、保存活用計画をまとめる予定で取り組んでいます。一方、市建設部局では平成 20 年 4 月を目途に、景観行政団体となるよう景観法に基づく景観計画を策定中です。



眼下に善光寺平ぜんこうじだいらの市街地や千曲川、遠く山並みが見渡せる姨捨の棚田



棚田オーナーの田植え、指導は地元農家で組織する「名月会」会員

■富山県南砺市 砺波平野の散村

富山県の西部に広がる砺波平野は、庄川の形成した広大な扇状地である。その全域にわたって水田と屋敷林に囲まれた家屋が100～150mの間隔で点在する国内最大規模の散村景観を形成する。散村の広がり、砺波市を中心に、南砺市、小矢部市、高岡市南部におよんでいる（220k㎡、7000戸）。このような景観は中世末から近世初頭にかけて、平野部の微高地に入植した農民が自宅の周囲を開墾し農地としたことで形成されてきたという。

「カイニヨ」と呼ばれる屋敷林は、強風や寒気、風雪あるいは夏の日射しなどの厳しい気象環境を緩和し、かつては燃料、建築用材、薬草などの需給を目的としていたが、一年中日陰となって好ましくないとか、大量の落葉の処理や高木の枝打ち、下草の除草など維持管理の負担が大きくて、現在の生活様式の変化などにより砺波地方でも急速に減少してきている。

現在は、砺波平野の散居村の広がる景観を生かした地域づくりが注目されるようになり、砺波平野の長い歴史と風土の中で育まれた小さな森である屋敷林を守って、次の世代に伝えていくため、散居景観保全事業を支援して行っています。



散居村夕焼け



屋敷林（カイニヨ）

■福井県福井市 越前水仙畑

福井市越廼地区は福井県北西部に位置し、日本海に面する。地区の多くは山地で、海岸線近くまで斜面が迫る地形となっている。このような地形を利用して水仙が栽培されている。冬になると海岸沿いの斜面に白い水仙の花が咲き誇り、独特の景観を創出している。

越前における水仙については、室町時代の記録『蔭涼軒日録』に越前国府の妙法寺から京都の相国寺を経て、将軍家に毎年水仙が献上されたとの記録が残っており、この時期にはすでに越前で水仙の栽培が行われた可能性が伺える。

現在では、地区における主要な農業生産物となっており、「越前水仙」のブランド名で切り花として主に中京・関西方面に出荷されている。機械化やモノレール、農道の整備等により省力化を進めているが、栽培者の高齢化が進んでいるのが現状である。

越前水仙畑は現在福井市指定文化財に指定されている。昨年度から本市では景観基本計画の策定に向けた作業を進めており、併せて水仙畑の調査を進める予定である。



越前水仙畑



越前水仙畑と集落

■岐阜県岐阜市 長良川（岐阜市の長良川の鶺鴒飼）

長良川は、美濃地方の中央を貫流する全長 160km の一級河川で、優れた水質、豊かな生態系、流域景観の美しさを誇る。流域の人々は、その清流から多くの恵みを受け、生業を立ててきた。長良川鶺鴒飼は、猛禽の鶺鴒の習性を利用して鶺鴒匠が手縄をつけた鶺鴒をあやつり、魚を獲る原始的な漁法で、漁業形態は獲鶺鴒、繋ぎ鶺鴒飼で、夏期に行う夜川の船鶺鴒飼である。現在の長良川鶺鴒飼は、時の為政者の保護の下、近代初頭に成立した伝統的かつ特色ある漁法を保持している。

岐阜市では、新たな「岐阜市景観基本計画」を本年度策定し、鶺鴒飼の舞台となってきた流域については、景観計画重要区域(市独自規定)に位置づけ、景観形成に関する方針や規制ルールづくりを行っていく予定である。本年度、文化的景観にかかる庁内プロジェクトチームを立ち上げ、保存調査ならびに保存管理計画を検討する有識者による委員会を設置する。長良川の文化的景観について懸案のひとつは河川改修事業との調整であるが、文化的景観のより望ましい保存と活用を目指したい。

また、岐阜市では「魅力アップ！鶺鴒飼文化の再発見事業」としてさまざまな事業を展開している。習俗調査を 18 年度までに終え調査報告書を刊行し、その成果をもとに岐阜県重要無形民俗文化財の指定申請を行った。さらに、鶺鴒飼や文化的景観を保護するため、市民やNPO、行政等で構成される「長良川文化フォーラム」では、上流域～岐阜市流域までの巡検を重ね、市民意識の醸成を図っている。



長良川・鶺鴒飼舟・金華山



鶺鴒飼 狩り下り

■岐阜県恵那市 坂折の棚田

市街地北西部の中野方町にあります。南東面する急斜面に拓けた石積みの棚田で、地区の中央には坂折川が流れ、最高部約 621m、最低部約 446mの間に 468 枚があります。今から 400 年ほど前から築かれ始め、明治時代初期に、ほぼ現在の形が出来上がったとされています。平成 11 年 7 月に農林水産省『日本の棚田百選』認定、平成 15 年に第 9 回全国棚田（千枚田）サミットを開催しました。

整備や保全是、早稲田大学の中島峰広教授を委員長に、地元農家、自治会、学識経験者からなる検討委員会から答申された「恵那市坂折地区の棚田に関する整備・保全構想」を踏まえ、地区の地形条件や農家の意向を基本に 4 つのエリアに区分して各種の整備事業を実施しました。また、地元の保存会による都市住民と生産者の交流の場として稲刈り体験ツアーの開催や棚田米を原料にした銘酒「黒鉄」の販売、地元農業高校の保全活動、地元小学校全校児童による田植え等の体験学習なども行っています。

現在は、市の景観計画や景観農業振興計画の中でどのように位置づけ、保存と活用を図っていくか検討を始めたところです。



標高差約 175mに 468 枚の石積みの棚田が連なる



一般公募による棚田稲刈り体験

■岐阜県高山市 高山市街地、高山の歴史街道、高山の農村・山村景観

・高山市街地：城下町は高山城を中心に、武家地、町人地、寺院群に区分、形成された。中でも三町、下二之町大新町伝統的建造物群保存地区に代表される町人地は保存状況も良好であり、山王祭（春）、八幡祭（秋）の祭礼場としても独自の文化的景観を醸成している。

・高山の歴史街道：飛騨における政治・経済の中心であった城下町から、東西南北へ街道が展開していった。各々の街道沿いに宿場や集落が生まれ、物流や文化の中継地点としての役割を果たしていた。

・高山の農村・山村景観：合併により日本一広い市となった高山市には、様々な自然環境が広がっている。地域ごとに多種多様な農村・山村が形成され、自然と一体となった景観が育まれている。



高山市街地 八幡祭の祭礼場・屋台の曳行



高山の農村・山村景観 長倉集落

■滋賀県近江八幡市 近江八幡の水郷

平成18年1月に重要文化的景観第1号として選定された「近江八幡の水郷」は、ヨシ地・水路・農地・集落・里山から成る景観である。当初の選定区域はヨシ地と水路のみだったが、7月に集落部分が追加選定され、12月に全国初となる景観農業振興地域整備計画を策定し、平成19年5月には農地と里山を追加選定する答申が出された。農地と里山が追加されることにより、「近江八幡の水郷」は複合景観として選定されることとなる。

選定範囲の拡大を行う一方で、近江八幡市では、次の世代を担う子ども達に自分達のふるさとの素晴らしさを知ってもらうため、平成18年8月に小学6年生を対象とした「近江八幡の水郷」船上見学会を実施した。また、重要文化的景観の形成に重要な家屋の修理事業を実施した。

民間では水郷地帯に唯一残存する島状の水田「権座地区」で11月に「権座水郷コンサート」が行われるなど、文化芸術の視点から水郷を捉えた行事も開催された。

今後は、集落や河川の整備計画を策定し、それに沿った整備事業を展開して行く必要がある。また、以前からの懸案であるが、ヨシ産業の衰退に伴うヨシ地の荒廃を食い止める仕組みの構築が最も重要な課題である。



水路・ヨシ地・農地・集落・里山が連なる複合景観



重要文化的景観「近江八幡の水郷」船上見学会

■滋賀県高島市 高島市海津・西浜・知内の水辺景観

高島市では、琵琶湖北西岸に位置する海津・西浜・知内地区の文化的景観を、現在、重要文化的景観として申し出準備を進めている。申し出予定範囲は、岩や桜並木の景勝地として知られる海津大崎から知内川河口にいたる湖岸と湖岸に沿う伝統的集落の町並みおよび後背地のうち湿地域である。海津・西浜の湖岸には、江戸時代中期に築かれた波除のための石積みが 1,100m あまり続き、この地区の特徴的な景観を作り出している。歴史的には、陸上および湖上交通の拠点として発展した場所で、現在も地区内には、宿場町・港町をしのばせる町並みや、琵琶湖と内湖を結ぶ水路の跡などが残っている。また区域内の湖岸や河川では古くから琵琶湖固有の漁業が行われており、現在もエリ・ヤナなどに代表される漁業景観が残されている。保存活用計画では、湖岸の石積みをはじめとするこの区域の景観を良好な形で保存継承していくことを目指し、石積みや江戸期の建造物等を重要景観構成要素として、修理・修景に一定のルールを設けるほか、数々の景観構成要素を多くの人に認識してもらうため、湖上から区域を眺めることのできる「文化的景観航路」の開設を進めている。



海津・西浜の石積み



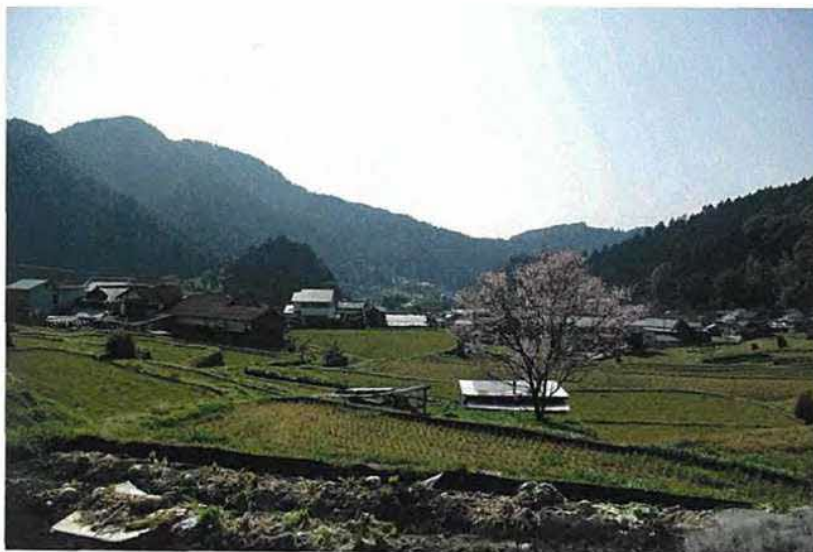
知内川のヤナ

■大阪府泉佐野市 日根荘の文化的景観

日根荘の文化的景観は、国史跡日根荘遺跡とそれに関連する地域の文化的景観を対象としています。日根荘は鎌倉時代から戦国時代にかけて続いた九条家の荘園で、当時の様子を伝える古文書・絵図等が豊富に伝わることや、現地に当時の様子を彷彿とさせる景観が残されていることから全国的にも著名な中世荘園で、寺社やため池用水路等 15 箇所が国の史跡に指定されています。

対象地の泉佐野市大木・土丸地区は和泉山脈の山間盆地、日根野地区は平野部に連なる扇状地に位置し、点在する国史跡とその周辺には荘園の時代から人びとに受け継がれてきた、大都市近郊にありながら良好な農村景観が広がっています。

日根荘の文化的景観の保存と活用に向けて、平成 18 年度に学識経験者・地元関係・行政関係による日根荘の文化的景観保存活用検討委員会を設置し、大木・土丸地区を対象に景観調査を実施し調査報告書を作成する予定です。また、国史跡日根荘遺跡長福寺跡では大木地区の文化的景観との調和を目指して、地元の方々の協力のもと、野外展示などの暫定活用事業を実施しています。



上大木地区風景



国史跡日根荘遺跡（長福寺跡）

■京都府宇治市 宇治

宇治川が山間から流れ出す谷口部に開けた宇治は、大化2年に架橋された宇治橋に代表されるように、交通の結節点として古くから集落が形成されてきた。平安時代には、藤原氏を中心とした別荘地として賑わい、その栄華は平等院鳳凰堂として今に伝えられている。また鎌倉時代からはじまった宇治茶の生産と流通に関する産業は、このような土地の歴史とあいまって、宇治に個性的で特徴的な文化的景観をかたち作っている。

宇治市では現在、この宇治の文化的景観を重要文化的景観として選定いただくよう、取り組みを進めている。



宇治橋を特色付ける三の間からみた宇治川上流の景観



平等院表参道ぞいに店を並べる宇治茶の製造販売の店舗

■兵庫県稲美市 稲美のため池群

古代の「いなみ野」と呼ばれた台地に加え、瀬戸内式気候に属する温暖少雨地帯。ここで生活をするためには溝をつくり、ため池を築きながら田畑を開くという開発が繰り返され、結果として独特な「水を中心とする生活空間」を育てた。

今後の方向

平成 14 年度から広域的に取り組まれた田園空間整備事業（「いなみ野ため池ミュージアム」）にもため池群という考え方があるので、ため池という地域資源の保護やその活用に関してこの事業と協調しながら進める。しかし、平成 19 年度でハード整備事業が終了するため、その後の稲美町での施策展開策を検討している。

また、稲美町総合計画の後期基本計画の策定（平成 18 年度）や都市計画マスタープランの見直し（平成 19 年度）の時に「景観法」を用いた新たなまちづくり方針を提案しているが、県との「景観行政団体」の協議は進んでいない。

平成 18 年度からは第 1 回「残したい稲美町の風景」写真コンテストを実施し、今年度も継続的に作品募集を行っている。



稲美町東部の風景（空撮）



秋祭り

■香川県高松市 高松市の出水（すい）とため池

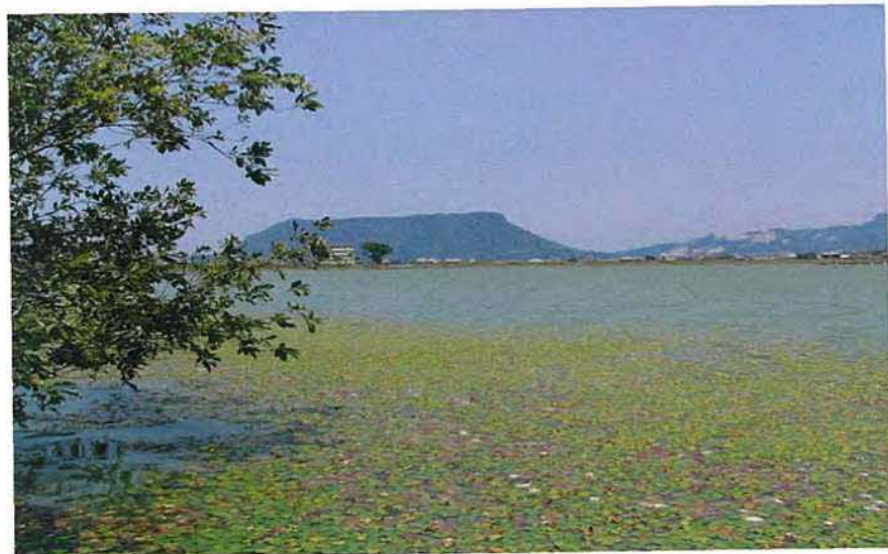
中小河川しか存在せず年間を通じて少雨の高松市においては、古くから出水と、築造後 300 年から千年以上の歴史を有するため池の水を貴重な農業用水として利用し続けてきており、上水道の普及後は水源ともなっている。

かつて高松市内には、香東川水系の伏流水が湧き出す出水が多数存在していたが、近年ビル建設などの基礎工事掘削による水脈の途絶等で数が減少している。一方、ため池については、市内に大小併せて約 2,800 余の存在が確認されている。小さな池では他地区であまり見かけない双子・三つ子池が各所に見られ、大きな池では堤防の修景がなされ公園化する・一部を水上ゴルフ練習場とする・希少水生植物を育てるなどの様々な取り組みがなされ、一昔前とは異なった様相を呈している。一例をあげると、水生植物の「アサザ」が群生する久米池については、平成 19 年 5 月に香川県が「希少野生生物保護区」に指定し保護が図られ、優雅な景観を作り出している。

現在、各ため池の管理者等においては、水利権や水利慣行に配慮する中で、周囲の環境にマッチし、かつ、生活密着型の景観整備に工夫を凝らしているところである。



三郎池 堤防に竜のモニュメントや休憩所が整備された三郎池自然公園



久米池 希少野生生物「アサザ」の群落。背後は史跡天然記念物屋島

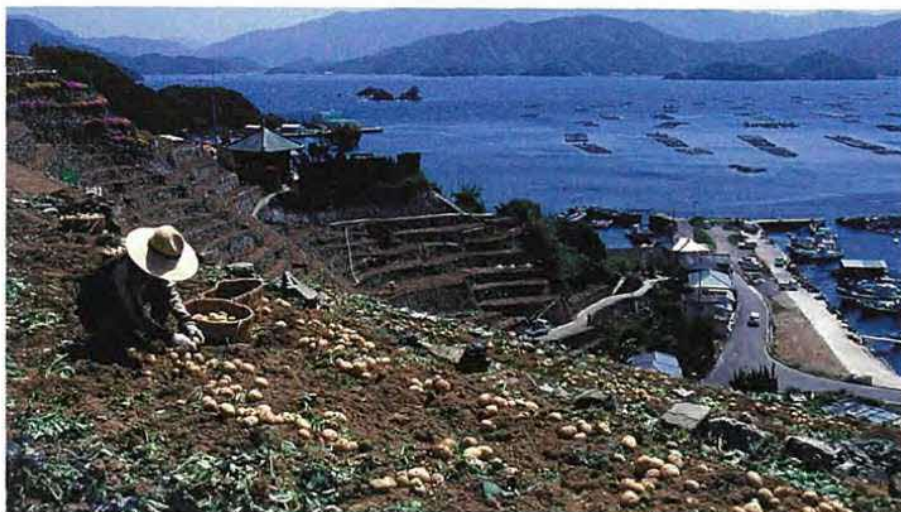
■愛媛県宇和島市 遊子水荷浦の段畑

平成 16~17 年度に実施した『宇和島の段々畑保存活用事業』（文化庁直轄事業）の成果を引き継ぎ、平成 18 年度は国庫補助を受け『遊子水荷浦の段畑調査及び保存管理計画策定事業』を実施、景観計画と同時並行で文化的景観の保存管理計画策定をすすめ、2 月には両計画策定を完了、約 166 ヘクタールの文化的景観の区域（景観計画区域）を定めた。そして、3 月市議会にて市景観条例を改正し、保存管理が図れる体制を整えた後、段畑を中心とした約 8.3 ヘクタールの範囲を、43 の所有者（県・市・自治会・個人）からの同意書を得て、第 1 次的重要文化的景観選定範囲として申出を行ない、先般 5 月の文化審議会で答申がなされたところである。

また平成 12 年結成の地元保存会『段畑を守ろう会』が、3 月に NPO 法人格を取得、耕作持続のための焼酎開発に乗り出し、その活動の幅が広がりをみせている。

今年度は、グリーンツーリズムや農山漁村の定住・地域間交流の促進に関する法令に基づく事業計画を市全域を対象に産業部局が策定中で、水荷浦地区を中心にしたエリアでは景観・環境保全を基本としたものになるよう、文化財部局と協働で作業を進めている。

課題としては、追加選定に向けて、農地に重きを置いた『段畑風景』から集落全体の『漁村風景』保全へどのようにシフトしていくかである。



4 月ジャガイモ収穫風景（2004 年 4 月 撮影：石崎幸治）



上空から見た段畑と漁場（2005 年 1 月）

■熊本県天草市 倉岳町棚底の防風石垣群

倉岳町棚底地区の防風石垣群の他に、天草町大江地区と河浦町崎津地区（農林水産業に関連する文化的景観 100 選に選ばれる）を「教会と集落景観」として併せて取り組むことになり、7月30日に第1回の学術検討委員会を開催する。現在、地区代表者、住民への説明会を開催して周知を図っている。

住民説明会では、本制度が規制を伴い、現状変更などの届出を要することなど不便さを心配する発言と、補助制度についての質問が多くある。



崎津漁港と朝もやの風景



大江教会

寄稿団体一覧

岩手県遠野市教育委員会文化課
岩手県奥州市教育委員会生涯学習課
岩手県一関市教育委員会生涯学習文化課
栃木県宇都宮市教育委員会文化課
群馬県板倉町教育委員会生涯学習グループ
千葉県鴨川市教育委員会生涯学習課
埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化課
長野県千曲市教育委員会文化課
富山県南砺市教育委員会文化課
福井県福井市教育委員会文化課
岐阜県岐阜市教育委員会社会教育室
岐阜県恵那市教育委員会文化課
岐阜県高山市教育委員会文化財課
滋賀県近江八幡市文化政策部地域文化課
滋賀県高島市教育委員会文化財課
大阪府泉佐野市教育委員会社会教育課
京都府宇治市教育委員会歴史資料館
兵庫県稲美町教育委員会文化課
香川県高松市教育委員会文化振興課
愛媛県宇和島市教育委員会文化課
熊本県天草市教育委員会文化課

昨年度参加された団体及び平成 12～15 年に行われた文化庁の「農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究」において重要地域とされた文化的景観が存在する都道府県・市町村並びに文化的景観の保存・活用に取り組んでいる市町村に資料提供を依頼したところ、上記の方々より寄稿いただきました。

■全国文化的景観地区連絡協議会 設立総会記念冊子

日本の原風景「文化的景観」

平成19年（2007）7月

発行：全国文化的景観地区連絡協議会

編集：一関市教育委員会生涯学習文化課

表紙写真：一関本寺地区航空写真

東側から望む本寺地区と栗駒山（須川岳）

